

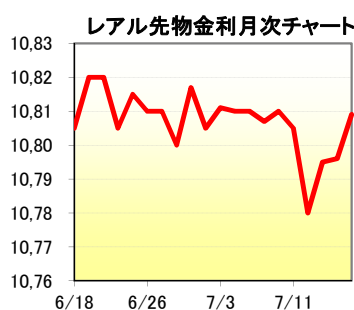
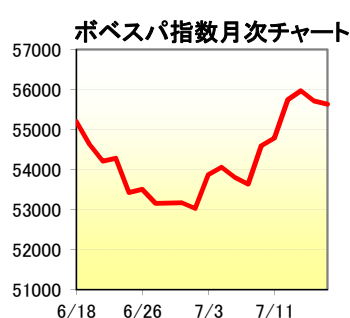
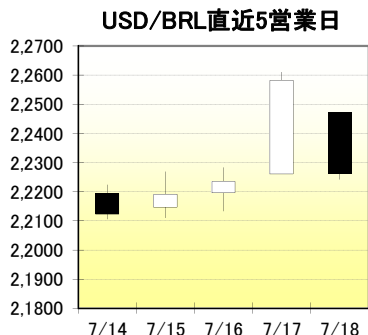
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,2120	2,2190	2,2240	2,2580	2,2260	-0,0320
	USD/YEN	Spot	101,54	101,67	101,69	101,20	101,34	+0,1400
	EUR/USD	Spot	1,3619	1,3570	1,3525	1,3527	1,3524	-0,0003
	BRL/YEN	Spot	45,90	45,82	45,73	44,81	45,52	+0,7100
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,16	1,09	1,01	0,95	1,02	+0,0720
		1Year(p.a.)	1,32	1,25	1,04	0,99	1,17	+0,1830
	Real Interest	6MTH(p.a.)	10,75	10,76	10,76	10,70	10,74	+0,0375
		1Year(p.a.)	10,86	10,86	10,84	10,77	10,83	+0,0597
Stock	Bovespa		55.744	55.974	55.717	55.638	57.013	+1.375,39
Bond	CDS Brazil 5y		146,14	148,02	148,00	149,96	141,00	-8,9600
	Global 40		111,050	111,000	111,000	111,000	111,050	+0,0500

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	
IGP-M Inflation 2nd Preview	-0.46%	-0.51%	-0.64%	なし
CNI産業信頼感	--	46.4	47.5	

4. 週間市況、トピックス

- ・ 今週の為替相場はUS\$1=R\$2. 2190で寄り付いた。
- ・ 週初めに発表された中銀によるアナリスト予想集計で2014年のGDP予想の平均値は1.07%から1.05%に下方修正される一方で2014年末のインフレ率予想は6.46%から6.48%に修正された。レアルは寄り付き直後に売りが優勢となったが、世界的な金融緩和維持観測を背景に主要株価指数が大幅上昇すると、リスク資産買いの流れとなりレアルは2.2110までジリジリと上昇した。
- ・ 翌15日には米小売売上高が市場予想を下回ったことからドル売り優勢となる中、レアルは週間高値となるUS\$1=R\$2. 2100を付けた。その後イエレンFRB議長が議会証言で米国の経済見通しに対して慎重な見方を示すと、マーケットはリスクオフの流れとなり、レアルは2.22台後半まで反落した。
- ・ 週末には5月の伯小売売上高が予想に反して3ヶ月振りに前月比プラスに転じたことからレアル買いが見られるも、堅調推移していた伯主要株価指数が短期筋の利食いや高値警戒感から反落、レアルもつられて下落した。
- ・ 翌17日には伯金融政策委員会(COPOM)で政策金利の据え置きが全会一致で決定されたことを受けて、利上げ期待が後退したことを背景にレアルは軟調に推移した。しかしロシアとウクライナの国境でマレーシア航空機が撃墜されたとの報道が出るとマーケットはリスク資産売り一色となり、為替市場は円やスイスフランが買われる一方、新興国通貨は全面安となった。レアルは週間安値US\$1=R\$2. 2610まで大幅安となった。
- ・ 週末にかけては海外でリスクオフモードが続く中、国内では世論調査で選挙が第2ラウンドに至った場合にルセフ大統領は野党のネベス氏と並ぶ可能性があることが発表されたことが好感された。その結果レアルは大きく反発、結局US\$1=R\$2. 2260で越えた。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したもので、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
7/21	貿易収支(週次)	jul/20	--	-\$240M
7/21	税収	Jun	--	87897M
7/22	IBGEインフル率IPCA-15(前月比)	Jul	0.24%	0.47%
7/22	IBGEインフル率IPCA-15(前年比)	Jul	6.57%	6.41%
7/23	FGV CPI IPC-S	jul/22	--	0.24%
7/23	失業率	Jun	--	--
7/24	Federal Debt Total	Jun	--	2122B
7/24	失業率	May	5.0%	4.9%
7/25	FIPE CPI-週次	jul/23	--	0.04%
7/25	FGV消費者信頼感	Jul	--	103.8
7/25	経常収支	Jun	--	-\$6635M
7/25	対内直接投資	Jun	--	\$5963M

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.18—2.25

今週はワールドカップ大会が終え、レアル相場の流動性は徐々に回復し、市場の注目は国内の財政状況や政治に移り始めた。今週は伯金融政策委員会（COPOM）が開催され、SELIC 政策金利は市場のエコノミスト大半の予想通り 11%に据え置かれた。1-3 月期の実質 GDP は前期から成長ペースが鈍化、4 月の経済活動指数は前年比マイナスの結果を示したことから景気の減速感が強まっている一方、インフレは少しずつ低下していることが背景となった。インフレ上昇率が落ち着いてきているのは好感される一方、週間エコノミストサーベイで発表されているように GDP 成長率は 9 週間連続下方修正され、ブラジルの経済成長は引き続き懸念されている。来週は国内では COPOM 議事録の発表があり今後の金利の動向が注目される。経済活動が弱いことから利下げサイクルに変わる可能性があるとの声も上がっているが、インフレは下がり調子でありながらも未だにターゲットの上限に近いほか、失業率も過去最低水準にあることから暫くの間は利下げは考えにくい。海外ではマレーシア航空機がミサイルを被弾し撃墜されたほか、イスラエル軍がガザ地区への地上侵攻を開始したことで、引き続きリスク資産の売りの動きが見られる可能性があり、再びレアル安トレンドが見られる可能性が高く、ボラティリティも高い展開が予想される。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したのですが、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A Treasury Department